

第 十 六 號

# 報 部

日 一 十 月 二 年 三 十 和 昭

- 菴 麻 と 愛 國 運 動  
(殖 産 局 農 務 課)
  - 佛 領 印 度 支 那 と 華 僑  
(臨 時 情 報 部)
  - 地 方 情 報  
(臨 時 情 報 部)
  - 美 談 集 錄 (三)  
(臨 時 情 報 部)
- 附 錄 事 變 日 誌

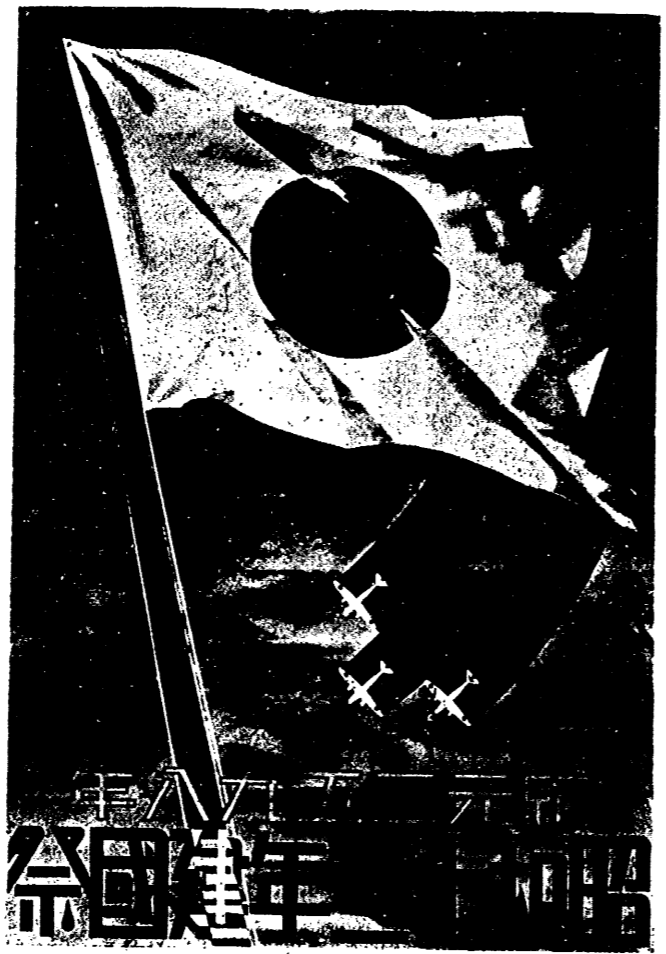
府 督 總 灣 臺

部 . 報 情 時 臨

昭和十二年九月二十日第三種郵便認可  
昭和十三年二月十一日發行  
每月一日、十一日、廿一日發行



旗御の字一紘八・一せへ翻



に爲の員動總力國一て起

府督總灣臺  
部本員動總神精民國

# 苧麻と愛國運動

殖産局農務課

## 一 はしがき

日支事變の勃發は、從來計畫せられつゝあつた多くの工業原料生産政策を急轉實行に移す契機をつくり、本島に於ける産業政策にも大なる影響を及ぼした。即ち本島に於ては精神、物質の凡ゆる方面に亘り非常時に則應すべき多くの施設が講ぜられつゝあるが、就中農業報國の最も目醒ましき現はれとして、茲に苧麻の愛國栽培運動を擧げることが出来る。この報國運動は昨年八月總督府、各州廳協力のもとに全島各農家、學校、農事實行團體等の参加を得、苧麻の栽培の普遍化を圖り國家總動員計畫中本島農民の負擔する分野の遺憾なき達成を期せんとしたものである。即ち愛國苧麻の栽培計畫を擧げれば全島四十萬の農家に漏なく一戸當三十株、内地人移民は一戸當六十株、三千七百の農事實行小組合の共同耕作地を有するものに一組合當九百株、小公學校、實業補習學校、農業學校にして農業實習を課するものに百五十株以上の苧麻を栽培せしむる運動である。此の運動は事變の擴大に伴ひ相當不足を豫想せらるゝ苧麻資源を補充すると共に將來本島農民をして其の栽培に習熟せしむる事を

目的としたものであるが、全島官民各位の熱情的協力に依り所期の成績を收めんとしつゝあるは誠に慶賀に堪へざる所である。

臺灣に於ける昭和十三年（十二年九月頃播種、十三年五月頃迄に收穫）の苧麻生産額は六百萬斤に達する見込であるが之は前年に比すれば約三〇倍の増産に當つて居る。苧麻が戦時に於て最も必要なる航空機の發動機用として必要不可欠のものである關係上最近頃之が解説を要望せらるゝ折柄次に苧麻に就きその概要を述べて見やう。

そも／＼苧麻子油は醫藥用、工業用として用途頗る廣く殊に近時急速なる發達を遂げたる航空機の發動機用減摩油としては現在之に優るものなしと言はれてゐる。是軍事上苧麻が重要視せらるゝ所以であつて、世界列強は擧つて本産業の發達に腐心し、各自其の熱帯植民地に對し之が栽培を奨励してゐる状態である。

繭つて本邦の状態を見るにその生産は見るべきもの殆んどなく、年約三千萬斤（昭和十一年は五千萬斤）價額三百萬圓餘（昭和十一年は五百六十萬圓）の輸入をなし、且つ逐年増加の傾向にある。斯くの如き國家的必需



(郡山旗州雄高)動運國愛麻苧るせ用利を路街

原料の生産を全然其の領内に有せざることは等閑に附すべき問題ではない。

本島は山野到る所に苧麻の野生を見其の栽培適地たるを想はしむるものあり、既に十數年前より之を試みるもの少からず、佐久間總督自ら之を試作し優良品種を撰出せられた。今日本島に於て最適種と稱せらるゝ佐久間種は即ち同總督の手によつて撰出されたものが更に改良されたものである。

然し過去に於ける試作は其の耕種法宜しきを得なかつた爲、暴風雨其他の災害を被り不結果に終つたが、中央研究所農業部に於ては最近の情勢に鑑み之が研究に盡力せる結果、耕種の適法と適種の撰出とに成功し經濟的生産の可能を思はしむるに至り、増産の機運漸く勃興したのである。

一方本島に苧麻製油を主目的とする杉原産業株式会社及び臺灣カストル殖産株式会社の新式二工場設立せられ生産物の取引安定せるを以て生産者の利益も大に増大するものと見られ、本島の特種産業としてその發達は期して待つべきものがある。

## 二 用 途

苧麻子油の用途は前述せる如く極めて廣汎にして醫藥用として下劑、軟膏劑等に用ひられるも、その主たる利用は各種工業原料及機械油にある。即ち高級石鹼、毛髮油、染色用ロート油、火藥、蠟取紙、靛皮、フェルム、ソノリウム、印肉等の原料に供され、殊に染色用、ロート油工業は頗る有望なるものであり、又機械油としての利用は最も重要視され、自動車航空機其他精密機械の潤滑油として特殊の效能を有してゐる。その潤滑油として特に撰ばれる理由を述べれば、

- (一) 苧麻子油は粘度極めて高く殊に高熱に伴ふ變化の鑛油其他に比して少きこと
- (二) 引火點極めて高き爲發火の危険少きこと
- (三) 凝固點頗る低く極寒時にも流動性を失ふことなきこと

一方使用中游離酸を生成する缺點あるも、航空機エンジンの如くその内部温度の攝氏五〇〇—六〇〇度の高温を永續するものに對しては、本油の特長はその缺陷を補つて餘りありと云はれてゐる。尤も航空機用苧麻子油には一定の規格があつて、その製造には相當技術を要するものである。以上の用途の外、印度に於て植物の葉を以て苧麻蠶を飼育し、油粕は肥料とせられ又は殺蟲劑を製し得る。尙この油粕の利用に就ては現在種々研究されてゐるからこの研究が完成されれば、苧麻の用途は更に擴大するであらう。

## 三 生産狀況

### (一) 本島に於ける生産狀況



麻苧るけ於に開苗所蠶業府督總

本島に於ける一般的栽培は中央研究所農業部に於ける佐久間種の撰出竝にその耕種適法の成功により刺戟せられ漸く昭和七年頃に始まり、當時我國の國際的情勢の反響を受け、之が栽培を有望視するもの多く、又之を機會として種子販賣により漁夫の利を占めんとする投機的栽培者續出し、利益を誇張して農民を惑し、可成不健全なる増殖を見た。偶々米穀對策として水田代作を奨励するに當り、本作物を水田に栽培せしめたるも、苧麻は水濕地を喜ばず、且つ栽培技術の幼稚なる結果必ずしも良成績は擧げ得られなかつたが今回の事變の影響と、勸業當局の指導に依り自給策が講ぜられたのである。即ち昭和十一年には三百餘甲に過ぎなかつたものが一躍八千餘甲となつた。

(二) 内地及朝鮮に於ける生産

内地に於ては古くより千葉縣及鹿兒島縣地方に栽培せられたるも現在は微々たるものである。然れども朝鮮に於ては咸鏡北道を除き各道に栽培され、その面積は二千二百町歩、生産額二百十萬斤内外の生産がある。之等は各自農家に於て自家用車油、又は婦女子の頭髮用油を得る爲に他作物又は敷地の一部に數坪宛栽培せらるゝもので、生産品として市場に出廻なく將來大産業化することは豫想せられざる状態である。

(三) 滿洲に於ける生産

滿洲の苧麻は日本の消費原料として其の半以上を供給してゐる。同地の耕種状態は明かではないが、

二年乃至六年他作物を栽培せる跡地に栽培してゐる。而してその生産統計は明かでないが三乃至四千萬斤見當で氣候の變化著しき爲その増減が甚だしい。而してその主産地は新民屯、法庫門及通遼、鄭家屯、洮南地方の様である。

(四) 世界の生産

世界に於ける苧麻の生産も確固たる統計なく詳かでないがその主産地として従來獨占的地位を占めてゐるのは英領印度であつて、毎年七萬ヘクタール十五萬瓩内外の生産があると言はれてゐる。次は蘭領東印度で其栽培は近年急激に増加し三萬五千瓩、次でブラジル二萬瓩の生産がある。其他支那、葡領植民地、佛領植民地等であつて、年三―四千瓩、又北米合衆國に於ても世界大戰後其の栽培が重要視せられ、盛に栽培せられてゐるが尙年五萬瓩内外は之を外國に仰ぎ世界の最大消費國となつてゐる。

四 本邦に於ける輸入状況

苧麻子の輸入は歐州大戰の頃より漸く増加して來た。蓋し内地に於ける苧麻子油の需要は軍需用民間航空用及び工業用として、大戰後著しく増大せるも原料種子を本邦に於て得られない故大正五年輸入税率の改正を行ひ、從來の課税を撤廢したので、從來苧麻子油として輸入されたものが原料のまま輸入される様になつた爲である。その輸入額は大正九年二百三十萬斤、二十一萬圓であつたのが昭和



十一年には五千五百萬斤、五百六十萬圓となつた。  
昭和六年以降の輸入額を示せば次の通りである。

| 年次    | 数量          | 同上          |             | 價額         |
|-------|-------------|-------------|-------------|------------|
|       |             | 滿洲及關東州ヨリ    | 同上以外ヨリ      |            |
| 昭和六年  | 二二、三三三、二〇〇斤 | 七、七七八、四〇〇斤  | 一九、七〇三、四〇〇斤 | 一、四五二、〇〇〇圓 |
| 昭和七年  | 二二、〇三二、四〇〇斤 | 九、四七七、七〇〇斤  | 一三、五五四、七〇〇斤 | 一、七八一、〇〇〇圓 |
| 昭和八年  | 三三、一四七、五〇〇斤 | 二二、二四四、一〇〇斤 | 一一、九七〇、八〇〇斤 | 二、七一七、四三七圓 |
| 昭和九年  | 三三、四九一、六〇〇斤 | 二二、九九九、〇〇〇斤 | 一一、〇三三、三〇〇斤 | 二、五三七、六六七圓 |
| 昭和十年  | 三四、三三三、五〇〇斤 | 二五、七八四、二〇〇斤 | 八、五七〇、六二六斤  | 三、三六一、六〇六圓 |
| 昭和十一年 | 五一、〇九六、九〇〇斤 |             |             | 五、五九一、二八一圓 |

### 五 性 状

蓖麻は大戟科に屬し學名を *Ricinus Communis* Linn. と稱し、一年生草本又は多年生喬木となる。一年生に於ては二米乃至四米に及び、喬木状となりたる時は十米に達す。莖は屢々蠟質物を被り比較的脆弱で風害を受け易い。葉は互生大型で掌状をなし、葉縁は鋸齒状になつてゐる。莖が一定の高さになればその頂點に花房を出す。花房は長さ五寸乃至一尺五寸の複總狀花序で雄花を下部に雌花を上部に着生する。蓖麻には第一の花房の基部の節から又狀に二つの枝を出し、之が成長して再び各頂點に

第二次の花房を着け、更に第三、第四と順次上部に花を着ける性質がある。之は栽培上最も注意を要する特性でその節間を縮め、分岐を多くすることが結局收量を増すことになる。一花房には通常一〇個乃至四〇個の蒴果を結び之は普通三室よりなり各一個の種子を藏してゐる。種子はツヅラ豆と同じ形と色をして居り、種皮は薄く滑澤で灰銀色の地色に暗黒褐色の美麗なる斑紋がある。その中にある柔軟で脂油に富む白色の仁が油の原料である。

蓖麻の氣候的適用範圍は頗る廣く熱帯より温帯に亘り、その生育の最低温度は攝氏一〇度であるから温帯では夏季の作物となつてゐる。

### 六 栽 培

#### イ 品 種



蓖麻結實狀況

蓖麻は頗る雑交し易いので産地によつて多數の品種がある。中研農業部に於ては之等を蒐集し優良品種の選出並に育種に努めてゐるが現在優良品種として推奨してゐるのは前記佐久間種である。之は病害に強く、且、油分含有率は四八―五二物で世界一である。又蓖麻の蒴は成熟すると裂開し種子を

飛散する性質があるが、佐久間種は裂開性が少いから圃場で種子を失ふことが少い。然しその反面に脱穀に不便な缺點がある。

#### □ 氣候及土質

原産地が熱帯であるから、高温を好み、又生育が急速であるから稍々濕潤な氣候に適する。土質は表土深く排水良好で肥沃なる粘質壤土が最適地である。排水良好なれば比較的土質を選ぶこと少いが、蓖麻の野生状態を一見してこれを瘠薄荒蕪地の適作物と考へるのは誤謬である。殊に佐久間種の如きは少くとも普通耕地の状態を具備することが必要である。

#### ハ 栽培要項

代表的品種佐久間種の栽培要項を次に掲げる。

播種期 九月を適期とす。但し降雨の關係上南部は九月早播とす可く、北部は少し遅るも差支なし。整地 犁耕したる後、刈耙、手耙にて土塊を碎き地表を均す。此際高畦を作り或は排水溝を設け播種後中耕培土により高畦とするを可とすべし。

肥料 施肥の標準の大略甲當窒素三〇貫、磷酸二〇貫加里二〇貫にして土地の肥瘠により加減するを要す。

例

基肥 甲當堆肥三、〇〇〇貫、過磷酸石灰五〇貫を均分して作條又は植穴に施すか、又は堆肥を

整地の際撒布して犁込むものとす。

追肥 甲當人糞尿二、〇〇〇貫を二回に施す。第一回追肥は草丈約一尺の時株の兩側を掘つて施し、第二回目は二次花房の着生時株の兩側又は株と株との中間を掘つて施す。

基肥少量に失し、追肥により追加せんとする場合は播種後一箇月以内に其の追加量を施すものとす。

栽植距離 畦幅四尺、株間二―三尺とす。土地瘠薄又は播種期を失するときは生育不良なるを以て多少密植するを可とす。

播種 一株三―四粒を播下し五分の厚さに覆土す。

灌水 播種後早天續きたる場合は灌水に努むべし。特に南部地方遅播の場合は之の注意を肝要とす。補植 缺株は速かに補播するか又は播種後三十日以内の若苗を移植し、灌水其他の管理を良くすべし。

間引 草丈一尺位までに二―三回行ひ一本仕立とす、異品種株は之を除去すべし。

除草、中耕、培土、除草と共に中耕培土を兼ね行ひ收穫までに二―三回行ふものとす。

病害の豫防驅除 植物體を萎縮、枯死せしむるものに於ては罹病株を除去し跡に生石灰又は木灰を撒布すべし。莖、葉、果房を部分的に加害するものは被害部の摘除又は三斗式ホルダー合劑の撒布を要す。病害中最も注意を要するものは果房を冒す腐敗病なり。

害虫の豫防驅除 種類多く放置すれば被害甚大となるのみならず或種の害虫は人體の皮膚を害し管

理、收穫時に惱まざるゝを以て何れも見當り次第速かに捕殺被害部焼却又は除虫菊加用石鹼合劑、  
デリス、砒酸鉛等の撒布を要す。

收穫 果房の蒴果の約半数成熟せる時を摘採適期とす。適期を失すれば蒴壁裂開し種子逸散し收量  
を減ずる虞あるを以て回數を多くして收穫すべし。

摘採の方法は果房の儘取り三―四日間陽乾の後蒴果を果房梗より離脱せしめ更に之れを陽乾  
全蒴完熟するを待つて脱殻に移るものとす。

脱殻 脱殻器を使用す。之を使用し得ざる場合は地下足袋を履き軽く踏むか或は丸棒を以て輕打し  
て脱殻す。後唐箕にて種子を撰別するを便とす。

種子の乾燥 種子は更に一―兩日間陽乾するを要す。

繁殖用種子は種皮破損粒を除き十分に乾燥して貯藏す。

### 七むすび

前述輸入状況に於て述べた如く、今昭和十一年苧麻子の輸入の中、その六割を滿洲及關東州、殘四  
割を本島に於て防遏せんには甲當平均收量一、五〇〇斤と見るも一萬三千甲の面積を必要とする。こ  
れには今の八千甲より更に栽培面積を増加し、尙栽培技術の向上を圖り、その單位面積當の收量をも  
増加せねばならぬ。

然るに従來の苧麻栽培は播種後の生育時に旱天續き水分不足せると、高米價に影響された米作偏重

と更に苧麻が本島何處にも野生し居るを見て如何なる地に放置するも良く育つといふ誤れる觀念から  
屢々失敗に歸したものがあつて、經濟作物とは言はれなかつた。そして又事實上必ずしも他作物に比  
し有利なるものとは考へられないが、然し將來は之が耕種法の技術を會得し、單位收量を増加せしめ  
ることに依つて益々經濟化し得るものである。現時非常時に當り、農業部門に従事する我々が銃後の  
民として何をなすべきかといふことを考へる時帝國領土内唯一の苧麻最適地としての本島に於て、そ  
の軍需工業原料生産の爲に、努力、奮闘以て皇國の恩に報い奉るは我々に與へられた尊い仕事ではあ  
るまいか。時恰も今回愛國苧麻に絡まる美談として僅か十四才の身でありながら然も危篤に陥つて折  
柄の早天に苧麻の生育を氣にしつゝ、「水、水、苧麻に水を」との數語を以て、はかなく散つた一少年  
林乞食君の赤誠は、戰場に於て「天皇陛下萬歲」の聲と共に名譽の戦死を遂げた兵の眞心にもたとふ  
べく、銃後の少國民の花であり、かの震災當時「君が代」を齊唱しつゝ死んだ「君が代少年」と共にその  
美しき心根は永久の語り草となるであらう。



# 佛領印度支那と華僑

臨時情報部

一四

## 一 佛領印度支那の概観

佛領印度支那は印度支那半島の東半を南北に長く占めてゐて、北は支那の三省(廣東・廣西・雲南)に接し、東部及東南部は東京灣及南支那海に面し、西部はシヤム國、西南部はシヤム灣に臨み、北西部はビルマに隣して居ります。國內は一般に山勝でフアパン及トランニンの如き一千乃至二千米にも及ぶ高原がありますが、北部ソクイ河の流域には東京平野が展げ、又シヤムとの國境を南下して南支那海に入る長河メコン河は廣大なる沃野を灌いで交趾支那の繁榮の基礎となつて居ります。印度支那半島は熱帶モンスーン地域にあるので、濕度が強く雨量が非常に多いのです。

佛領印度支那はもと支那の勢力範圍であつたのですが、一八五八年、時のフランス皇帝ナポレオン三世がスペインと共に安南を攻撃し翌年西貢を占領し一八六二年の西貢條約以來印度支那半島の東部大半を確保したのであります。今日佛領印度支那聯邦は佛植民地として一括總稱されてゐますが、之を法律的、政治的に見ますと交趾支那を植民地として總督を置き、東京・安南・老撾及柬埔寨を保護國として各國に役人を配して之を統治せしめ、フランス人が完全に政治上の實權を握つて居ります。佛

國は東亞特に支那への進出に汲々たるの餘り内治を重大視せず唯苛酷なる政治を以て之に當つて居た

嫌あり、爲に近年統治問題、人種問題、産業問題等が土人一般民衆の向上と共に喧しく論議されるに至り革命家をさへ生むに至りました。

面積はフランス本國の一・三倍で七四〇、四〇〇方軒を有しながら人口は約二三、〇三〇、〇〇〇人の稀薄さであります。華僑の数は三二五、八〇〇人であつて佛領印度支那に於ける國際的取引には支那人の勢力が絶對的であります。又支那人の優勢な地位は其の後道路及鐵道の建設、農業技術の發達に依る土人生産力の増加等によつても少しも縮少されずむしろ強化しつつある状態であります。

産業は農業が最も盛んで中でも米作を主とし、ゴムの栽培も近年當局保護の下に佛人の投資が盛んになりつつあります。其の他の農作物は玉蜀黍・椰子・豆類・甘蔗・茶・胡椒・煙草・棉・コーヒー等であり、又ラオスの山には優良なチークが繁茂して居り、鑛産物も豊富で唯開發を待つばかりであります。佛領印度支那は純農業國であると稱せられて居るだけあつて、傳統的農業の代表的作物たる



ハノイ日本領事館

米の生産及輸出は印度支那に於ける百般の經濟的活動の基準をなして居り又農産物の輸出は總輸出額の約七〇%を占めて居ります。殊に米は住民の生活必需品である上に農産物輸出の大部分を占めて居ります。

此の佛領印度支那には安南・柬埔寨・タイ族・チャム族・ムオン族・ヤオ族・メオ族・インドネシア族の如く起源習慣等を異にする多種多様な種族が住んで居りますが、中でも安南人最も多く總人口の十分の七にも及び南支那海沿岸の南北に亘る重要な地域に住んで居て、大體に共通の言語・習慣・宗教を有し思想の傳播も比較的急速なる爲に統治上佛國政府の最も關心を有つて居る民族であります。

言語は單綴語で支那語の影響を受けて居る點が非常に多く文字も支那文化の影響により早くより漢字が用ひられ従つて古文獻は殆ど全て漢字であり宗教も儒教・道教・佛教等であり、随つて孔孟の道や宿命論が行はれてゐましたが、十七世紀にカトリック教宣教師が渡來してより、ラテン語が用ひられ漢字を廢して之を國語として用ひるやうになり、その爲に土人は古代文化や思想とは文字の上で遮斷されてしまひ、新にヨーロッパ流の自由民權の思

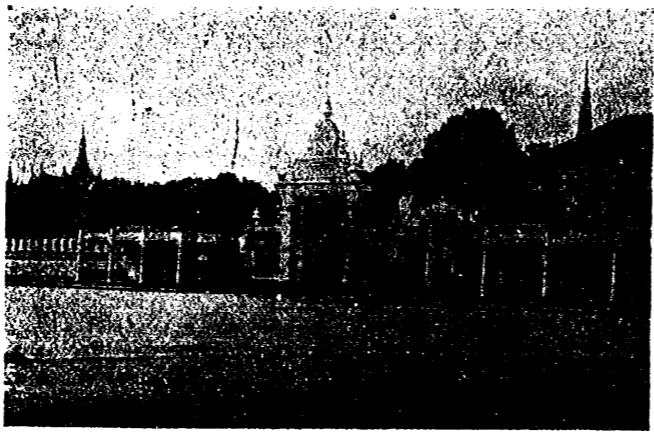


(方東ソオファイハ)灣シロハ景絶

想が輸入せられ新舊思想の混沌たる中へ最近共產主義が喰入つたため結局フランスは古來の支那思想

を除去せんとして思はぬ敵に脅威を感じて居る有様です。

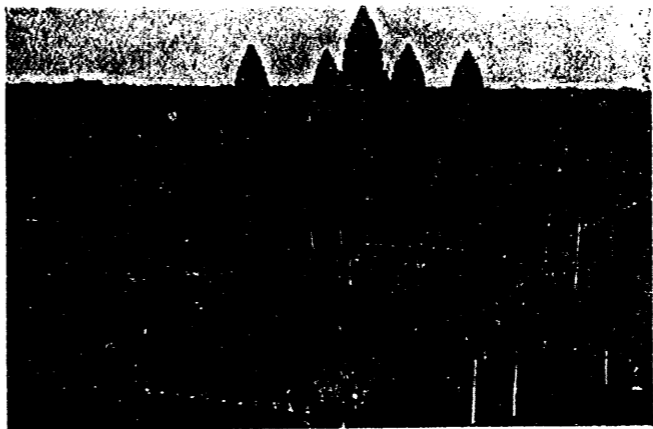
都會は南部と北部の平野に發達してゐます。西貢は西貢河の右岸に臨み人口約十五萬交趾支那の首府で政治・商業・海陸交通・學術等の中心をなし、佛領印度支那の支關口で多數の船舶出入し、大船商船の航路の線が定期船も寄港して居ります。商港としては佛領印度支那の總貿易額の約七割を占め、主に農産品で最も米が多く輸出高百萬トンにも上つて居ります。西貢の西方約五軒の支那街堤岸は人口約十九萬の中約十萬は支那人で商權の九〇%を掌中に收め多くは米穀商・精米所を經營して居り、又堤岸は交趾支那に於ける唯一の工業都市で大小百數十の工場があり、海防は海を距る事約五軒の地點にあり、人口約十三萬商業交通工業の中心地で香港を唯一の對外貿易先とし又大船商船の基隆・海防間の定期船もあり、鐵道・國道及河によつて首府河内と連絡され貿易の發達によつて絶えず擴張さ



門正宮玉ヤチボンカ

れて居ります。工業會社としてはセメント會社、紡績會社等があります。

在留邦人の人口は極めて少く且つ昭和五年以降は激減し現在三三〇人(昭和十年調)であります。元來我が國との經濟關係は遠く數百年の昔豊臣、徳川時代の海外貿易公許制度である御朱印船制度に始まり、大商人の渡航者多く、安南・東埔寨に優勢な日本町が建設され、各々其の地に於て商權を把握し剩へ政治的にも大いに其の威力を發揮して居りましたが、家光の鎖國令公布によつて遂に之等の有力な經濟關係が潰滅するに至つたのであります。其の後明治時代になつてから、新興思想の勃興に依り海外發展の目覺しいものがありました。佛國政府の獨占的排他的經濟政策に基く人爲的障害に依り充分發展する事が出来ず明治二十九年以來の交渉も何等の効果なく彼我の貿易關係は益々沈滞の一途を辿るのみでありましたが、一九三二年待望の通商條約が締結せられ前記の悪状態は稍改善せられるに至りました。然し未だ十分満足し得べきものではなく今後の改善に大いに待つべきものがあります。



(暹佛ヤチボンカ)景全トツワルーコンア

## 二 華僑の動向



(河ソコメはるれ流を央中)景景のソゴイサ

借、佛領印度支那に於ける支那事變發生後の情勢に就て見まするに當初に於ては華僑の排日は案外微温的でありましたが、戦火が中支に波及し更に南支の爆撃が報道せらるゝに及んで、その大部分が南支の出身である華僑の抗日気分は濃厚となり殊に青年層、不良分子の暗躍は猛烈を加へ漢字紙は筆を揃へて虚報を傳へ逆宣傳を爲し、遂に日本品の取扱を停止し又外國品でも日本人經由のものに對しては不買を斷行する等完全なる排日運動が行はれるに至りました。前述の如く佛領印度支那に於ける華僑の勢力は絶大にして特に商業上の地位は牢固として抜くべからざるものがあり、西貢、海防、堤岸等の都會は固より奥地に至るまでの樞機を握り日本商品でも華商の手を経るといふ状態にあるので、此の完全な排日運動はさなきだに關稅障壁による彼我の貿易不振を愈々深刻ならしめ、日本品の輸入激減となり一部關係を存續する状態となりました。殊に支那人

町の威ある堤岸の華僑は主として廣東人にして精米業の經營を獨占せる状態ですが、事變に因り排日熱昂がり邦商の西貢米買付に對し勢からぬ阻害を與へ、支那政府より屢々煽動者を送り排日と獻金を策し、更に進んでは福建系華僑が屢々邦商と往來したのを口實として廣東系華僑が之を壓迫するといふ傾向さへ見える程徹底して居り、之が爲邦商にして閉店するものも生じました。唯邦人少數の爲佛領印度支那全般としては華僑の排日運動も他の南洋各地方の如く目立たず、不祥事件もなく邦人の生命財産には何等の危険はありません。特に海防方面に於ては邦商微々として振はず日支人の關係稀薄にして排日の影響といふべきものを認め得ない状態であります。

此の排日運動に對し佛國官憲は日支兩國人を同等に取扱ひ不穩行動は嚴重取締ると稱して居ります。又佛印經由支那向け武器輸送の禁止が佛國政府により言明せられました之が爲我が海軍による支那沿岸封鎖に惱まされてゐる支那が此の方面に懸けて居た援助の望も斷たれました。次に佛字新聞の論調を見ましても事變勃發當初に於ては日本に不利な記事が多かつたやうでしたが、そ



(ヤチボンカ)家の人士

れも多くは外國通信をその儘掲載したもので論說などは成るべく之を避けて居た様子が窺はれます。

最近事變の推移に伴つて反日的記事は氣勢が著しく衰へ日本に有利な事實が傳へられるやうになりました。

この情勢の下にある在留邦人は邦字新聞の便はないがよく領事館と連絡し、時局の認識を誤らず、少數ながらも一致團結よく我が國策に相呼應してその經濟的打撃にもよく堅忍持久の精神を以て邁進して居ります。

最近日貨不買運動に因り華僑經營の精米工場が二三倒閉し又此の際に乗じ印度商がその地盤を侵蝕しつつある時、兎角國家的背景のない華僑の經濟力、愛國心よりも私利私欲に走る華僑の精神力は果して自己にも巡り來る此の犠牲に耐へ得るや、その素質より見てこの排日運動が恒久性のものでないことは自ら明らかな所でありませう。此の際に於ける在留邦人の隱忍自重と、今後に於ける外交々涉による彼我の貿易復興とは帝國の南方發展のため望ましい次第であります。



(妻髮結の者婦既)人婦スオラ

## 地方情報報

三二

### ○支那事變に關し執りたる措置

臺南州臨時情報部

#### 一 皇后陛下御下賜品の傳達

昭和十二年十二月七日皇后陛下御下賜の御菓子竝に御歌は遺族に對し、皇后陛下の宏大無邊なる思召の在らせらるゝ所を訓話傳達せり。

#### 二 中等學校及青年訓練所聯合野外演習の實施

昭和十三年度臺南州下中等學校及青年訓練所の聯合野外演習は一月二十一日、二十二日の兩日に亘り臺南市近郊及新豐、新化兩郡下に於て知事統監の下に實施せるが、參加總人員一千名を突破せり。更に演習參加部隊及演習に參加せざる市内各男子中等學校低學年生徒も共に整列、皇軍の武運長久を祈願せり。

#### 三 少年團合同野營及祈願祭の執行

昭和十三年一月十六日、十七日の兩日に亘り臺南市に於て州下少年團合同野營及皇軍武運長久祈願

祭を執行せり。各郡市よりの參加少年は其の數三百五十餘名に達せり。

#### 四 支那事變の巡回映寫

支那事變の巡回映寫第十六回、第十七回を實施せり。

#### 五 時局に關する講演資料の發刊

時局に關する講演資料を發刊し(各三千部)前同に準じ普く州下に配布せり。

#### 六 臺南州國防義會航空團結團奉告祭所屬飛行機及グライダー命名式に結團式の舉行

臺南州國防義會航空團結團奉告祭所屬飛行機及グライダー命名式に結團式は昭和十三年一月二十三日午前十時より臺南飛行場に於て森岡國防義會聯合本部理事長代理を始め軍、官、民代表者多數參列の下に最嚴肅裡に執行せり。

### ○學園に咲く花

高雄州臨時情報部

#### 銃後に咲く大和撫子

暖かき師の翼の下、浮世の荒き波風を外に嬉々として集ふ乙女子、平和な學園に育つ子等にも此の事變は大きな衝動を與へずには置かなかつた。

三三

否、人一倍感じやすい彼女たちの胸は、祖國の非常時に湧き立つたのである。幾多の勇士を驛頭に見送る毎に、無言の凱旋を目の邊り迎へる度に、さては街に、家に、銃後の護りを固める人等の熱誠を見ては、等しく皇國の赤子たる血潮の到底じつとして居ることは出来ない。

「私等として出来るだけの事は……」と、起ち上つた高雄高等女學校の生徒等の姿を次に紹介することにする。

◆ 水兵さんへの感謝

私と友達と四人が軍艦見學に行つて色々お世話になつた驅逐艦が、今度の事變で〇〇警備の任にあたつてゐると聞き、日本のために盡される水兵さん達の事を思ひ、私達は感謝と共に慰問の御手紙をさし上げることを相談いたしました。

高雄神社に参拜し水兵さんの武運長久をお祈りして、彈よけにと御神符をいたゞく事にしました。士官の方が乗組員は〇〇名だと云はれたことを思ひ出し、社務所でたのみしましたら、數が多いのでどうするかと聴かれました。軍艦に送るのだと申しますと、お金はいらなうとおつしやいますので、それでも……と願ひしましたがどうしてもお受取り下さらないで「貴女方の真心だけで充分です」と云はれました。

四人共神社のかたに感謝して、その御神符にそへて慰問文を書き乗組員全部にわけて下さいます様艦長さん宛に御送り致しました。

◆ 私の時局指導

教育を受けて居ない者が流言に迷はされて眞の帝國の現状や、戦況を知らなかつたりするのは餘りにも氣の毒だと思ひます。

私の家の裏には學識のない魚屋さんが二、三軒ございます。この人達は國語が上手でないのです。又その魚屋さんの近所に支那人も住んで居ります。魚屋さんと申しましても日本人ですが、やゝもすると世間の流言に惑はされさうな方達ばかりです。

しかし夜の九時になりますと福建語ニュースがあります。丁度よい事には私の家にラヂオがございしますので、私の考で九時になりますと、魚屋さん達の家族を御用事のない限り私の家へ呼んで来て、彼等にわかる福建語ニュースを聴かせて、絶対に流言等に迷はされぬ様にするに、時局の重大さを認識させようと努めてゐるのでございます。



美談集録 (十三)

二六

臨時情報部

烈風吹きすさぶ寒中

御詠歌に託す此の赤心

老の身に床し此の美談

こゝ帝國の西南端、支那大陸も指呼の間に、國の鎮めの第一線、澎湖島なる馬公街。

時は睦月の中つ頃、潮風吹き来て腥ぐさき、雨さへ交じる夕まぐれ。

鈴の静かな音と共に、風の傳ふる歌聲は、紀伊の國なる高野山、弘法大師の御詠歌で。

「有難や——高野の山の岩かげに——」

大師はいまだ——おはしますなる——」

「高野山——結ぶ庵にそでくちて——」

昔のしたにぞ——ありあけのつき——」

御詠歌の流れは、街の小路から大路へ、軒から軒、家から家へと進んで行く。先達をしてゐるのはもう六十の坂を三つ四つは越えてゐると思はれるお嬢さん、後に続く九名の人々も、いづれ劣らぬお嬢さんばかり。右肩から左へと斜に掛けた白禱の文字が、もうとつぷりと暮れた夕闇の中に、國防婦

人會とおぼろに讀まれる。

御詠歌獨特のさびた歌聲は、澄み切つた鈴の音と共に神々しいまでに尊い餘韻を残し乍ら、夜風の冷めたい闇の中につつまでもく續いてゐる。

※ ※ ※ ※ ※

此の一團の人々は

「國防の第一線にある澎湖に住んで、日々事變の話を聞くにつけ、自分達は年老いて何彼の事があつても、却つて足手纏ひになるばかりであるが、せめて此の際何か自分達で出来る事をして、眞に日本人の一人としての御奉公をせずには居られない」

と言ふ氣持から、日頃佛教に歸依する事厚いお嬢さん達は、御大師様の御詠歌を誦じて馬公の各戸を廻り、喜捨された金を献金する事を思ひ立ち、幸ひ一同の中の最年長者である前田エンさんが御詠歌の上手な所から、前田さんを先生にして練習する事にした。そして正月前の主婦として最も多忙な中から、僅かの時間を見出しては練習を重ねたのだつた。

愈々練習を終へたお嬢さん達は、大日本國防婦人會澎湖分會の承認を受けて、おゆづるの代りに禱をかけ、一月八日から十四日までの一週間毎日々々馬公の町の隅から隅までを廻り歩いた。所が生憎と此の一週間は馬公名物と言はれる季節風の最も吹き荒れた時で、年老いたお嬢さん達には風と寒さは相當身にしみた模様であつたが、奉公の一念と、街の人々の感激と、眞心からの喜捨に疲れ切つた身心を元氣付けられて立派に此の難行を果し得て、喜捨金百九十四四五六錢それに自分達の懐中か

ら五四四十四銭を出し合せて合計二百圓を献金したのであつた。

毎日正午から午後の六時七時頃へかけて十三米或は十七、八米と言ふ潮水を含んだ風に、髪を亂され足許も危ふげに吹きまくられ、寒さにふるへ乍らチリン／＼と鈴を振り鳴らしつゝ、喜捨を乞うては合掌禮拜し、ふと立ち止まつては重い足をなてさすり家から家へと廻り歩くお嬢さん達の姿は、到底涙なくしては見られなかつた程であつた。

野菜の無償配付に

錦上花を添ふ

愛國熱に燃え立つ童心

高雄州岡山郡楠梓公學校と言つただけでは兎角忘れ勝な世人には一寸思ひ當らないが、愛國蕘麻少年の母校と言へば非常時局臺灣の代表的美談を生んだ學園として全島民はあろか、凡そ蕘麻に關はりある者は誰でも知らぬ筈はない。此の名譽に輝く學園に育くまれる全校生徒の誇らしげな顔、そして小さき者の受持つ銃後の護りにいそしんでゐる態度、それは蕘麻の生育と共に伸び行く童心の飾らない顯はれである。一犬吠ゆれば萬犬吠ゆ、一人の行ひは善いにつけ、惡いにつけ忽ち及んで全部を化す。それが模倣性の鋭い幼な心、感受性の強い童心なのであらう。

此の學校にも農業實習園があつて蕘麻の外に生徒の丹精をこめて栽培した人參、大根、トマト、キヤベツ等がよく生育して居る。そして材料費に充てるため時々街に賣りに行く。これが亦一つの楽しみでもある。

今日しも黎維槍外七名の六年生兒童の一團が人參を擔いで附近の臺灣橋子頭製糖所構内へ行つて軒並びの住宅を此處彼處と賣り歩く中に、とある家の門口に掲げられた「出征軍人」の旗が眼に着いた。感じ易い無垢の童心に閃めいたのは今朝も教室で開いた「輝く日の丸」の口繪にある塑像のやうな勇士の姿である。此の家の主人もあのやうな素晴らしい姿で戰場を馳驅してゐるのであらう。とその颯爽たる英姿に無限の憧れと絶大の感激を覺えつゝ、翻つて留守宅の淋しさと家族の勞苦を目のあたり見ると賣ることを忘れて人參二束を置いて出て行つた。そして次から次へと構内の出征軍人の家を訪れて何れも二束づゝを配付した。善い事をした喜びは是れだけでは足らず人參の束が盡きると又もや運んで來た大根一束づゝを同様配付した。その心持に感謝した家人の強いて出さんとする金は受取らうともしない。

奇なる哉、縁なる哉、この時恰も同所では護國の英靈に對する慰靈祭が行はれた。それは英靈が呼ぶのか、自然に牽きつけられるかのやうにこの式場に足を運んだ少年達は參列者の悲痛な面持ち、嚴肅な雰圍氣に包まれて先程の喜は忽ち消えて一途に感傷的な氣持になつてしまつた。せめて感謝の眞心を捧げたいとその儘式に參列し一同心からなる焼香に勇士の瞑福を祈つたのである。遺族は勿論並居る參列者はこの麗はしい眞心に感謝すると共にそれが楠梓公學校の生徒であることを知つて更に喜んだ。

此の錦上花を添へる床しい話に蕘麻少年も無かし地下に微笑んでゐることであらう。



# 附 録

## 事 變 日 誌

### 臨 時 情 報 部

一月二十一日

1. 膠濟全線を確保せる我が部隊の一部片野部隊、青州南方臨朐縣城の一角に突入せり、
2. 中支派遣松井最高指揮官杭州を視察せり。
3. 中華民國臨時政府、生活必需品及び復興材料等に對する關稅率改正を發表せり。

一月二十二日

1. 浦東の殘敵に對し飯塚部隊は川沙・集浦鎮・三林塘に待網を張り、黃浦江上及東面には海軍を配し、南方奉賢閘口鎮の線より谷川・津田・福井各部隊が清蕩進撃を開始し南淮縣を奪取、本日完全に掃蕩を完了せり。

2. 米内海相議會報告の我が海軍の戰果左の如し。

支那軍損害

軍艦 巡洋艦一八隻。水雷艇一三隻。

砲 艦一〇隻。特務艦一三隻。

砲 艇一一隻。魚雷艇一一隻。

驅逐艦一一隻。計 二七隻。

飛行機

擊墜確實一五九九。

稍不確實一六〇。

計 六五九。

帝國海軍損害

艦 艇一損害無し。

飛行機一六五機。

3. 海の荒鷲、衢州(浙江省)・玉山(江西省)に空爆を加

へたり。

一月二十三日

1. 下川部隊、杭州・余杭・富陽を結ぶ三角地帯の殘敵掃蕩を完了せり。
2. 竹内部隊、周村北方長山附近の殘敵を完全に掃蕩せり。

一月二十四日

1. 我が飛行機の偵察に依れば、津浦線鳳陽・蚌埠に於て支那軍陣地構築に狂奔しつゝ、あり。
2. 我が政府、「支那人が支那統治の原則にて新政權援助を聲明せり。
3. 我が空軍左の地點を空爆せり。

長沙(飛行場・格納庫)・徐州・宜昌(飛行機一六・格納庫・兵舎)・衢州・碭山(江蘇省)・明漢線。

一月二十五日

1. 津浦線明光を進發した添田部隊、梁家崗を占領北進せり。
2. 津浦線管店・來安方面の敵敗殘兵續々投降せり。

3. 我が海軍廈門沖に進み、軍事施設に對し徹底的爆撃を加へたり。

4. 威海衛に大暴動起れり。

5. 帝國政府、北支新政權指導の専門顧問として平生八三郎氏外數名を派遣する事となれり。

6. 廣東省東山飛行場及石歩に對し空爆を加へたり。

一月二十六日

1. 片野部隊、臨朐を完全に占領せり。(武裝解除一二三遺棄死體七〇)。
2. 大抑鎮(濰縣西方)の田代部隊、約八百の敵逆襲部隊を撃退せり。
3. 敵重爆撃機十二機南京を空襲し來れるを以て我が軍反撃を加へ三機を撃墜、他を遁走せしめたり。(搭乗者はソ聯人なる事判明せり)。

4. 杭州にも敵機三機來襲、内一機を撃墜せり。

一月二十七日

1. 我が部隊、郭山城(曲阜東方十二軒)の西方に於て敗殘兵匪を撃退せり。

